

委員会審査

9月定例会で決算特別委員会に付託された議案及び12月定例会で常任委員会に付託された議案等について審査を行いました。

決算特別委員会

委員長 福積章男

◆財政収支について

問 今後の収支バランスについて

答 地方交付税の特例措置による合併算定替、今後段階的に縮減されることや市税全体の伸びが期待できないことから、今後予測される歳入の減額に伴い、投資的経費等について、これに見合った形で、さらに削減していかねければならなくなると考えています。

また、25年度の単年度収支は、基金の積み立てを行ったことにより赤字という形になりましたが、今後とも、各種基金や有利な起債を活用し、財源の調整を図りながら、引き続き財政の健全化に努めていきたいと考えています。

◆小学校統廃合について

問 今後の対応方針について

答 計画では、小学校29校を11校とする計画ですが、現時点では、三善、白滝、大和の各小学校については統廃合を行わないという回答を頂いています。

教育委員会としては、いったん地元との協議を完了し、今後は地元から要請があれば、随時協議に応じていく考えです。

問 財政全体への影響について

答 統廃合のメリットは、財政面だけに限って言えば、あまり大きくならないものと捉えています。

◆観光振興について

問 観光施設の集客数が減少傾向となっていることについて

答 平成25年度の観光客数は、県内で一部の地域を除き減少傾向となっております。

観光名所である臥龍山荘



り、当市においても、全国的な減少傾向に加え、周辺地域に新しく誕生した観光施設の影響を少なからず受けていると思われま

◆意見

歴史的文化財や伝統芸能など観光資源を活かすために、一層工夫を凝らし、当市のイメージアップ、地域経済の活性化、雇用創出につながるような新たな発想で事業展開を望む。

◆病院事業について

問 休診となっている小児科について

答 全国的に医師不足、地域偏在などが問題となっており、医師確保が困難な状況となっております。現在、愛媛県において地域医療への医師確保のため

に、医学生に対して奨学金貸与制度が実施されており、この地域枠医師が順次、公立病院等に配置されるまでは、勤務医師の確保は困難な状況ですが、関係機関、医療施設と密接に連携を図りながら、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

意見 医療を取り巻く環境が厳しさを増す中、自治体病院という地域の医療の中核施設として、市民の健康と生命を守るため、安全・安心で質の高い医療が提供できるような一層の取り組みを求める。

市立大洲病院



総務企画委員会

委員長 大野立志

◆大洲市名誉市民の選定に

ついて

問 中村修二氏の記念講演について

答 2月3日、名誉市民の称号贈呈式に引き続き、『青色LEDの開発からノーベル賞受賞まで』と題して約1時間の講演をいただきます。各種団体のほか、市内の高校生にも案内し、貴重なお話しをお聴きいただきたいと考えています。

意見 今回の受賞は、市民にとつての誇りであり、活気と希望をいただいた。このような講演はもちろん、LEDを活用したイベントを行うなど、今後、当市の活性化に結びつくような事業についても検討していくべきである。

◆ 請願第7号「伊方原発を再稼働させないことを求める請願」について

◆ 請願第12号「大飯原発での運転差止判決をふまえ、伊方原発を再稼働させず廃炉に向けていることを求める請願」について

◆ 請願第14号「福井地方裁判所の「運転差止しめ」判決を尊重し、伊方原発3号機の再稼働中止を求める意